

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：13901

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K19957

研究課題名（和文）初期ネーデルラント美術におけるイメージの複製・伝播と「神聖空間」の創出

研究課題名（英文）Hierotopy in Early Netherlandish Art

研究代表者

杉山 美耶子（Sugiyama, Miyako）

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：50962932

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の成果を第76回美術史学会全国大会、2023 International Congress on Medieval Studiesにおいて発表し、国内外に美術史における神聖空間の概念の重要性を発信した。また、ブリュッヘのアドルネス一族礼拝堂に関する研究成果は、2024年内にBrepols Publishersより国際共著として刊行される。また、ビザンチン建築史、エチオピア建築史、仏教圏文化史の専門家を交えた比較共同研究も新たに着手した。現在、初期ネーデルラント美術の中でもヤンファン・エイクに着目し、彼の作品における神聖空間の表現と創出について、単著を執筆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来ビザンチン美術の枠組みにおいて用いられてきた理論を、初期ネーデルラント美術に応用し、聖なる原型の複製が、世俗空間を唯一無二の聖なる空間に変換するために果たした固有の役割について、複数の事例研究を通し分析・解明した。神聖空間の理論の普及に貢献し、時代・地域を超えた本理論の有効性を国内外に発信した。神聖空間の理論の普及のため、国際シンポジウムの開催と共著の刊行を計画している。

研究成果の概要（英文）：The results of this research project were presented at the 76th Conference of Japan Art History of Society and 2023 International Congress on Medieval Studies. The case study on the Adornes Family Chapel will be published as a chapter of the co-written book from Brepols Publisher in 2024. The new joint research was launched with researchers on Byzantine architecture, Ethiopian architecture, and Buddhist culture. Currently the author is writing a book on Hierotopy in early Netherlandish art, especially focusing on Jan van Eyck's art.

研究分野：初期ネーデルラント美術

キーワード：ヒエロトピー 神聖空間 ネーデルラント美術

1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまで一貫してイメージがもつ霊的効力について研究を行ってきた。現代において美的・芸術的対象ととらえられる作品の多くは、中世末期ネーデルラントにおいて特定の機能を有していた。それらは単に見るだけでなく、特定の方法で使用されることが意図されていたのである。この観点を明確に例証するのが、人間が死後に煉獄で過ごす時間を軽減する贖宥に関わるイメージと、聖なる対象に感謝或いは祈願をこめて捧げられた奉納像に関わるイメージ群である。同研究で分析した作品の中には、**型となる聖なるイメージが複製され、新たな地へともたらされ、原型とは異なる信仰形態を有するようになる**という事例が多く認められた。これらを検証する上で**枠組みとなるのが、ヒエロトピーの理論である**という着想にいたった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ヒエロトピーという理論をネーデルラント美術にはじめて応用し、「**空間イメージ**」の分析という**新たな研究領域をネーデルラント美術研究にもたらす**ことであった。同理論は主としてビザンチンの聖堂内部分析において用いられてきたが、東方と密接な交流が存在し東方のイコンに基づく様々な絵画が流布したネーデルラント美術にも応用可能であると報告者は考えた。無論、東方と西方教会では典礼行為や聖なるイメージに対する神学的議論が異なる点を考慮する必要がある。本研究の核となる「複製」というテーマは、現在のネーデルラント美術研究の潮流において、概して技法的観点から検証される。すなわち、X線や赤外線ラディオグラフィ調査によって、作品の真贋を明らかにしたり、原型をうつす際に用いられた技法や動機を明らかにするといった試みである。そのため、複製作品は原型作品との比較において論じられ、その芸術的価値は原型に劣ると閑視される傾向にある。本研究では複製作品が**設置された空間やその演出方法を考慮することで、それらがもつオリジナリティへと視点を変えて研究を遂行した**。ヒエロトピー研究は未だ開拓の余地が多分にある研究領域であり、国内では殆ど実施されていない。国内におけるヒエロトピー研究促進のため、ビザンチン建築と仏教文化の専門家と「**東西キリスト教と仏教圏における神聖空間の比較研究**」を新たに実施した。

3. 研究の方法

以下の5段階で研究を進めた。

聖なるプロトタイプ イコン の複製と刷新：ペトルス・クリストゥスとハイネ・デ・ブリュッセルは奇跡を起こす聖像「カンプレーの聖母」のコピーを複数制作した。このように、古いイコンが複製されつつもより自然主義的に刷新されている事例を検証した。特にヤン・ファン・エイクの《聖顔》の複数のコピー作品について事例研究を行った。

場 トポス の複製：のように作品単体ではなく、空間そのものが複製された事例を検証した。ブリュージュのアドルネー族は1470 - 71年に聖地エルサレム巡礼を行ったが、帰郷後にイエスが磔刑に処せられたゴルゴダの丘を模した礼拝堂を建立した。このように、聖地の縮小版コピーと捉えられる空間が、絵画・彫刻を用いた各種の演出によ

り創出されている例を精査した。

イメージによる一次的神聖空間の創出：15・16世紀ネーデルラントでは、都市を一時的に聖地エルサレムに変換するため聖史劇が催され、画家や彫刻家が聖なる空間を演出するために雇用された。特にブリュッヘにおけるエルサレムの創出というテーマを掲げ、都市全体を一時的に聖なる空間に変容するために用いられた作品や儀礼を検証した。

4．研究成果

本研究課題の成果を第76回美術史学会全国大会（杉山、「ヒエロニムス・ボス《東方三博士の礼拝三連画》「グレゴリウスのミサ」とエルサレム礼拝堂」）、2023 International Congress on Medieval Studiesにおいて発表し（Sugiyama, “Stabat mater in panel paintings by Robert Campin and Jan van Eyck”）、国内外に美術史における神聖空間の概念の重要性を発信した。また、ブリュッヘのアドルネス一族礼拝堂に関する研究成果は、2024年以内にBrepols Publishersより国際共著として刊行される（Sugiyama, “Golgotha Reincarnated: Calvary Altar in the Adornes Chapel and the Mass of St Gregory by Hieronymus Bosch”）。また、ビザンチン建築史、エチオピア建築史、仏教圏文化史の専門家を交えた比較共同研究も新たに着手した。現在、初期ネーデルラント美術の中でもヤン・ファン・エイクに着目し、彼の作品における神聖空間の表現と創出について、単著を執筆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 杉山美耶子
2. 発表標題 ヒエロニムス・ボス《東方三博士の礼拝三連画》「グレゴリウスのミサ」とエルサレム礼拝堂
3. 学会等名 第76回美術史学会全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyako Sugiyama
2. 発表標題 Stabat mater in panel paintings by Robert Campin and Jan van Eyck
3. 学会等名 2023 International Congress on Medieval Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Miyako Sugiyama et al, edited by Jill Harrison and Bryony Coombs	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Brepols Publishers	5. 総ページ数 -
3. 書名 Anselm Adornes. Art, Commerce and Piety in Fieteenth Century Scotland, Bruges, and the Mediterranean	

〔産業財産権〕

〔その他〕

名古屋大学 研究者詳細
https://profs.provost.nagoya-u.ac.jp/html/100012321_ja.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	University of Bozan			
日本	名古屋大学	北海学園大学		